

丁完
要
済

昭和 12年 文 第 911 號

接受	昭和 年 月 日
起案	昭和 12年 九月 二 日
接受ヨリ 起案マテ ノ日數	

日	判決
施行	昭和 12年 九月 十日
九月 十一 日	

農 林 省
同議用紙

文書課長

官

類書
林

標準時改正ノ開スル件
前題ノ件ノ開シハ農林省局長小島政局長
官宛及照會候處去々別紙ノ通回奉有之候
付々左様施行相成可也

裏面白紙

裏面白紙

農
林
省

洋
紙

葉

年
日
日

1855

文部次官宛

次官名

件

名

首題ノ件ノ開
昭和十二年八月二十四日附發第一一〇
號ノ以テ照會有之候處
當者卜レテ以テ別段意見無
ク候條御了承相成度此段及
回答候也

一二農局第三八九一號

昭和十二年八月卅一日

農務局長

官房文書課長殿

標準時改正ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ八月卅日附一二文第九一一號ヲ以テ御照會有之候處
當局ニ於テハ意見無之候條可然御取計相成度此段及回答候也

農林省

裏面白紙

12山第三六八五號

昭和十二年八月三十一日

農林省山林局長

官房文書課長殿

標準時改正ニ關スル件

八月三十日附一二文第九一一號ヲ以テ御照會ニ係ル首題ノ件別段ノ意見無之候條此段及回答候也

農林省

裏面白紙

タイプライター用紙 大塚納

509



一二局第七四三號

昭和十二年九月七日

農
林
省
水
産
局
長

官
房
文
書
課
長
殿

標準時改正ニ關スル件

八月三十日附一二文第九^{九二}十一號ヲ以テ照會ノ首題ノ件ニ關シテハ支障ナシ
ト認メ候條此段及回答候也

農
林
省

裏
面
白
紙

(小
冊
納)

契

一二畜局第三二五四號

昭和十二年九月一日

農林省 畜産局長

大臣官房 文書課長 殿

標準時改正ニ關スル件

八月三十日附一二文第一一號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ照會相成候處
別段意見無之此段及回答候也

農林省

裏面白紙

(小張納)



一二覽第一八〇二號

昭和十二年八月卅一日

文書課長殿

蠶絲局長

農林省

標準時改正ニ關スル件

一二文第九一號ヲ以テ照會有之候標記ノ件ニ關シテハ當局トシテ
別段意見無之候條此段及回答候也

裏面白紙

十二米局第一七二四號

昭和十二年九月二日

米穀局長

官房文書課長殿

標準時改正ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ八月三十日附一二文第九一一號ヲ以テ照會相成候處當局ニ於
テハ格別ノ意見無之候條御了知相成度此段及回答候也

十二更部第一一六號

昭和十二年八月卅一日

經濟更生部長

官房 文書課長 殿

標準時改正ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ八月三十日附十二文第九一一號ヲ以テ照會有之候處當
部ニ於テハ別段意見無之候條了承相成度此段及回答候也

農
林
省

(小冊納)

日本標準規格 B-4

一二馬第一〇五八一號

昭和十二年八月卅一日

馬政局長官



大臣官房文書課長殿

標準時改正ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ八月卅日附一二文第九一一號ヲ以テ御照會相成候
處當局ニ於テハ別段意見無之候條此段及回答候也

馬政局

裏面白紙

手宛
要再回

昭和 72 年 文 第 911 號

新
新
新
新

接受
昭和 年 月 日
起案
昭和十二年八月二十五日

接受ヨリ
起案マテ
ノ日數

日
施行
判決
昭和十二年八月廿五日

農 林 省

同議用紙

文書課長

次 官

標準時改正ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ文部次官ヨリ別紙ノ通照會越
有之候ニ付、左乗施行相成可也哉

案

年月日

課長名

各局部長及馬政局長官宛

件名

首題ノ件ニ關シ文部次官ヨリ別紙寫通照會有
之候條右ニ付テ何等御意見有之候ハ八月末日迄
御回示相煩度此段及照會候也

施行注意 添付書類全部即チ文部次官名照會寫、本初
子午線經度計算方標準時、改正要綱、改正理由大要、
本初子午線經度計算方及標準時、及標準時變更ノ添
付ノ件

(小紙)

(寫)

發專一一四號

昭和十二年八月二十四日

文 部 次 官



農 林 次 官 殿

標準時改正ニ關スル件

今般臺灣總督府並ニ沖繩縣ヨリノ申請ニ依リ別紙ノ如キ理由ニ基キ明治二十八年勅令第六十七號「標準時變更」ヲ廢止シ明治十九年勅令第五十一號「本初子午線經度計算方及標準時」ヲ左記要綱ニヨリ改正シ昭和十二年十月一日ヨリ實施ノ豫定ヲ以テ右勅令改正ノ手續致度キ處本改正ニ關スル貴省ノ御意嚮至急御同示相煩度此段照會ス

文第 911号
昭 12.8.25 和
農 林 省

記

「本初子午線經度計算方標準時」改正要綱

- 一、英國グリニツツ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス
- 一、經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス
- 一、昭和十二年十月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ帝國標準時ト稱シ本邦一般ノ常用時ト定ム
- 一、帝國標準時ノ測定、保守、發表ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 一、本令ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（改正理由大要）

一、沖繩縣管内宮古八重山二郡ハ明治二十八年十二月二十八日勅令第六十七號第二條ニ依リ臺灣ト同シク西部標準時ヲ使用スルコトトナリ爾來四十餘年ヲ閱シ同一管内ニ於テ實時差十數分ナルニ拘ラス中央西部兩標準時ノ二者ヲ使用シ來リ行政上縣民生活上其ノ他幾多ノ不便苦痛ヲ忍ヒテ今日ニ至レルカ近年文化的施設ノ普及發達ニ伴ヒ無線電信、電話ノ開通、航空路ノ開拓、優秀船ノ就航等ニ依リ、海上空中ノ距離著シク短縮セラレ縣勢上縣民生活上一大革新ト飛躍ヲ要スヘキ緊要ノ秋ニ際會シ二種ノ標準時ヲ使用スルコトハ各般ニ亘リ支障多ク縣民舉ツテ同一標準時ノ使用ヲ熱望セリ

一、臺灣ノ位置ハ附屬島嶼ヲ加ヘ極東ハ東經百二十二度六分二十五秒、極西ハ百十九度十八分十三秒トス臺灣ノ我領土ニ歸スルヤ略其ノ中央ヲ

通過スル東經百二十度ノ子午線ヲ以テ本地方ノ標準時決定ノ基準トシ以テ帝國中央標準時ヨリ一時間ノ時差ヲ以テ帝國西部標準時設定セラレ今日ニ至レリ然乍ラ臺灣文化ノ進展ハ日ト共ニ著シク殊ニ近年ニ至リテ經濟事情ニヨル内臺流通物貨ノ統制連絡及航空、海運ノ發達電信電話ノ有無兩線ノ連絡ノ躍進、ラヂオノ普及等ハ内地トノ距離ヲ著シク短縮セルモノト認ムヘク且最近ニ於ケル帝國南方ノ鎖鑰トシテ本島ノ國防的經濟的現狀ハ愈々内地ト緊密ナル活動體タルヲ期待スヘキ秋内臺間時差ノ存在ハ兩者ノ間ニ於ケル迅速敏活ナル即應活動ニ支障ヲ生スルコト多ク其ノ憾ハ時ト共ニ加速度的ニ痛感セラルルモノアリ官民各方面ニ於テ時差撤廢ヲ要望スル聲ハ次第ニ喧稱セラルルニ至レリ加之本年一月ヨリ隣邦滿洲國及關東州ハ既ニ標準時ヲ中央ニ合流セルアリ地理的事情ヨリ見ルトキ亦國內ニ特ニ異標準時ヲ存置スル理由ナ

キヲ證スルヲ得ヘク又此ノ時差ノ撤廢ニヨリ亭クル内臺諸方面ノ利
益ハ之ニ依リテ忍フヘキ慣行ニ狎レタル爲ニ來ル一時的不便ヲ償ヒ
テ尙餘リアリト言フコトヲ得ヘシ。

裏面白紙

○本初子午線經度計算方及標準時

明治十九年七月十三日
勅令第五十一號

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一、英國グリニツチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度
ノ本初子午線トス

一、經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ
西經ヲ負トス

一、明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本
邦一般ノ標準時ト定ム

○標準時變更

明治二十八年十二月二十八日
勅令第百六十七號

朕標準時ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國從來ノ標準時ハ自今之ヲ中央標準時ト稱ス

第二條 東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ以テ臺灣及澎湖列島並ニ八重

山及宮古列島ノ標準時ト定メ之ヲ西部標準時ト稱ス

第三條 本令ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス